

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月14日

【四半期会計期間】 第54期第1四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 一正蒲鉾株式会社

【英訳名】 ICHIMASA KAMABOKO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 野 崎 正 博

【本店の所在の場所】 新潟市東区津島屋七丁目77番地

【電話番号】 025 - 270 - 7111 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 滝 沢 昌 彦

【最寄りの連絡場所】 新潟市東区津島屋七丁目77番地

【電話番号】 025 - 270 - 7111 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 滝 沢 昌 彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第1四半期 連結累計期間	第54期 第1四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日
売上高 (千円)	7,445,577	7,534,354	34,785,101
経常利益又は経常損失( ) (千円)	141,443	94,545	1,526,107
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	173,396	123,722	846,582
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	326,558	146,404	847,087
純資産額 (千円)	9,104,994	10,022,037	10,279,591
総資産額 (千円)	25,660,095	26,067,529	23,520,072
1株当たり当期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (円)	9.38	6.69	45.79
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	35.5	38.4	43.7

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、また、第53期第1四半期連結累計期間及び第54期第1四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失金額のため記載しておりません。
- 4 1株当たり当期純利益金額又は四半期純損失金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式については、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成29年7月1日～平成29年9月30日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善の効果により全体として緩やかな回復基調となりました。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、節約志向や低価格志向は解消されておらず、消費者ニーズの多様化への対応が求められるなど引き続き厳しい状況が続いております。

このような環境のなか、当社グループでは最優先に取り組んでおります「安全・安心」な商品の提供を念頭にお客様の消費動向を捉えながら、効果的な販売促進施策の推進により売上高の拡大に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高75億34百万円（前年同四半期比88百万円（1.2%）の増加）、営業損失は1億57百万円（前年同四半期は営業損失1億31百万円）、経常損失は94百万円（前年同四半期は経常損失1億41百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億23百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億73百万円）となりました。

当社グループにおけるセグメントごとの経営成績の概況は以下のとおりであります。

#### 水産練製品・惣菜事業

当セグメントにおきましては、当社の主軸商品群である「減塩商品」に、はんぺんをラインナップとして追加するとともに、長年ご愛顧いただいている基幹商品のリニューアルや品質改善を実施してまいりました。

また、「うな次郎の日」として7月26日に記念日登録した「うなる美味しさうな次郎」や白身魚独特のほぐれ感を実現した「サラダフィッシュ」などが堅調に推移したことにより、売上高は前年同四半期を上回る結果となりました。

利益面においてはエネルギーコストが増加したことに加え、労働力不足による人件費の増加がありましたが、売上高の増加により前年同四半期と同水準となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は66億19百万円（前年同四半期比1億16百万円（1.8%）の増加）、セグメント損失（営業損失）は56百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）56百万円）となりました。

#### きのこ事業

当セグメントにおきましては、夏から初秋にかけて天候不順が続き、野菜市場価格は大きく変動しましたが、きのこの市場価格は堅調に推移しました。生産面においては品質改善及び安定栽培に努め、また、販売面においては販売促進を強化しましたが、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は7億86百万円（前年同四半期比28百万円（3.4%）の減少）、セグメント損失（営業損失）は1億38百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）1億14百万円）となりました。

#### その他

#### (運送事業・倉庫事業)

運送事業におきましては、燃料費等の経費増加があったものの、既存のお客様との取引拡大により、売上高・利益ともに前年同四半期を上回る結果となりました。

倉庫事業におきましては、前年同四半期を上回る新規入庫を獲得したものの、保管在庫量が低調に推移した結果、売上高・利益ともに前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、報告セグメントに含まれないその他の売上高は1億28百万円、セグメント利益（営業利益）は41百万円といずれも前年同四半期と同水準となりました。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は90億59百万円（前連結会計年度末比25億42百万円の増加）となりました。これは主に季節的要因による売掛金の増加ならびに需要期に備えた商品及び製品の増加によるものであります。

固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は170億8百万円（前連結会計年度末比5百万円の増加）となりました。これは主に水産練製品製造設備の機械装置及び運搬具の増加ならびに減価償却の進行によるものであります。

流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は113億29百万円（前連結会計年度末比34億69百万円の増加）となりました。これは主に季節的要因による支払手形及び買掛金ならびに短期借入金の増加によるものであります。

固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は47億16百万円（前連結会計年度末比6億64百万円の減少）となりました。これは主に社債及び長期借入金の減少によるものであります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払等により100億22百万円（前連結会計年度末比2億57百万円の減少）となり、自己資本比率は、前連結会計年度末の43.7%から38.4%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じたものはありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は71百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,400,000
計	64,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,590,000	18,590,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	18,590,000	18,590,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日		18,590,000		940,000		650,000

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 65,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,522,400	185,224	
単元未満株式	普通株式 2,600		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	18,590,000		
総株主の議決権		185,224	

(注) 1 単元未満株式には、自己株式が8株含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する株式37,000株(議決権の数370個)が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 一正蒲鉾株式会社	新潟市東区津島屋 七丁目77番地	65,000		65,000	0.34
計		65,000		65,000	0.34

(注) 「株式給付信託(BBT)」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する株式37,000株については、上記の自己株式等を含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,033,505	1,194,384
売掛金	2,639,843	4,160,641
商品及び製品	791,927	1,161,101
仕掛品	603,412	922,448
原材料及び貯蔵品	1,286,029	1,372,218
その他	162,865	249,146
貸倒引当金	562	751
流動資産合計	6,517,021	9,059,189
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,439,983	6,420,920
機械装置及び運搬具（純額）	2,934,935	3,048,140
工具、器具及び備品（純額）	166,504	167,985
土地	3,267,127	3,267,127
リース資産（純額）	199,985	189,759
建設仮勘定	25,866	-
有形固定資産合計	13,034,403	13,093,933
無形固定資産	330,023	338,659
投資その他の資産		
投資有価証券	2,915,880	2,857,465
その他	747,243	742,781
貸倒引当金	24,500	24,500
投資その他の資産合計	3,638,624	3,575,747
固定資産合計	17,003,050	17,008,339
資産合計	23,520,072	26,067,529
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,877,411	2,279,172
短期借入金	2,879,925	5,984,094
未払法人税等	518,028	60,825
賞与引当金	60,744	243,991
未払金及び未払費用	1,529,559	1,710,549
その他	993,806	1,050,452
流動負債合計	7,859,476	11,329,086
固定負債		
社債	1,175,000	952,500
長期借入金	3,171,303	2,789,770
役員退職慰労引当金	57,034	25,304
役員株式給付引当金	34,624	38,762
繰延税金負債	560,204	542,183
その他	382,838	367,886
固定負債合計	5,381,004	4,716,406
負債合計	13,240,480	16,045,492



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	940,000	940,000
資本剰余金	650,000	650,000
利益剰余金	7,291,907	7,057,035
自己株式	56,781	56,781
株主資本合計	8,825,126	8,590,254
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,344,224	1,308,853
為替換算調整勘定	110,241	122,929
その他の包括利益累計額合計	1,454,465	1,431,783
純資産合計	10,279,591	10,022,037
負債純資産合計	23,520,072	26,067,529

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
売上高	7,445,577	7,534,354
売上原価	5,810,049	5,842,622
売上総利益	1,635,528	1,691,731
販売費及び一般管理費	1,767,524	1,849,526
営業損失( )	131,996	157,795
営業外収益		
受取利息	106	699
受取配当金	3,808	2,237
受取賃貸料	3,663	4,294
受取手数料	7,964	6,579
受取保険金	8,555	-
為替差益	-	58,868
売電収入	6,696	6,523
雑収入	15,800	11,282
営業外収益合計	46,595	90,485
営業外費用		
支払利息	21,932	14,893
為替差損	25,297	-
持分法による投資損失	6,104	9,595
雑損失	2,707	2,746
営業外費用合計	56,042	27,236
経常損失( )	141,443	94,545
特別利益		
固定資産売却益	54	-
特別利益合計	54	-
特別損失		
固定資産除却損	826	120
固定資産売却損	487	-
投資有価証券評価損	27,746	-
特別損失合計	29,060	120
税金等調整前四半期純損失( )	170,449	94,666
法人税、住民税及び事業税	53,542	64,953
法人税等調整額	50,595	35,898
法人税等合計	2,947	29,055
四半期純損失( )	173,396	123,722
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	173,396	123,722

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
四半期純損失( )	173,396	123,722
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	22,520	35,371
為替換算調整勘定	178,070	13,276
持分法適用会社に対する持分相当額	2,387	588
その他の包括利益合計	153,162	22,682
四半期包括利益	326,558	146,404
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	326,558	146,404
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高等の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年9月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成29年9月30日)

当社グループは主力事業である水産練製品・惣菜事業及びきこの事業の販売が第2四半期連結会計期間に集中するため、第2四半期連結会計期間の売上高及び利益が他の四半期連結会計期間に比べ高くなる傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
減価償却費	336,546千円	325,566千円
のれん償却額	4,250	4,250

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年9月28日 定時株主総会	普通株式	111,150	6.0	平成28年6月30日	平成28年9月29日	利益剰余金

(注)平成28年9月28日定時株主総会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金228千円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年9月26日 定時株主総会	普通株式	111,149	6.0	平成29年6月30日	平成29年9月27日	利益剰余金

(注)平成29年9月26日定時株主総会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金222千円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,502,664	814,402	7,317,067	128,510	7,445,577		7,445,577
セグメント間の内部売上高 又は振替高				578,451	578,451	578,451	
計	6,502,664	814,402	7,317,067	706,962	8,024,029	578,451	7,445,577
セグメント利益又は損失( )	56,071	114,779	170,851	41,610	129,240	2,756	131,996

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントであります。  
 2 セグメント利益又は損失( )の調整額 2,756千円は、主にセグメント間取引消去であります。  
 3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,619,574	786,194	7,405,769	128,585	7,534,354		7,534,354
セグメント間の内部売上高 又は振替高				605,185	605,185	605,185	
計	6,619,574	786,194	7,405,769	733,770	8,139,540	605,185	7,534,354
セグメント利益又は損失( )	56,800	138,557	195,357	41,346	154,010	3,784	157,795

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントであります。  
 2 セグメント利益又は損失( )の調整額 3,784千円は、主にセグメント間取引消去であります。  
 3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	9円38銭	6円69銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期 純損失金額( )(千円)	173,396	123,722
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額( )(千円)	173,396	123,722
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,487	18,487

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、また、前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間については、1株当たり四半期純損失金額のため記載しておりません。
- 2 株主資本において自己株式として計上されている資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社の株式は、1株当たり四半期純損失金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第1四半期連結累計期間38,000株、当第1四半期連結累計期間37,000株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月10日

一正蒲鉾株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 森 谷 和 正 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 尾 雅 樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている一正蒲鉾株式会社の平成29年7月1日から平成30年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、一正蒲鉾株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。